2026．7～9　No.77

かなしん景況レポート


神奈川県庁(中区日本大通り)「歴史通り」神奈川県観光協会提供

目　次

景気動向	“原材料・資材等、供給不足の顕在化や物価高騰に伴うコスト増加が重荷に”	2
	地域経済(全業種総合)および業種別経済	4
	特別調査　「中小企業における生成AIの利活用について」	18
お客さま景況インタビュー	株式会社　茅ヶ崎技研 『 技術力と人間力の向上を目指して36年 』	19
トピックス	「法人企業景気予測調査(横浜財務事務所)業況D.I.の推移」	2
	「神奈川県の金融経済概況(日本銀行横浜支店:2026年9月)のポイント」	5

調 査 概 要

調査時期	令和8年8月17日から令和8年9月4日まで
調査地域	横須賀市・逗子市・三浦市・三浦郡葉山町・鎌倉市・横浜市・川崎市・藤沢市・茅ヶ崎市 大和市・綾瀬市・高座郡寒川町
調査方法	調査員による面接聞き取り方式又は対象企業先による直接記入方式
分析方法	各質問項目で、「増加」(上昇)したとする企業が全体に占める構成比と、「減少」(下降)したとする企業の構成比との差(D.I.)を中心にして分析を行いました。
回答率	調査先数　当金庫取引先　500先　回答 487 先　回答率 97.4 %

全業種総合天気図

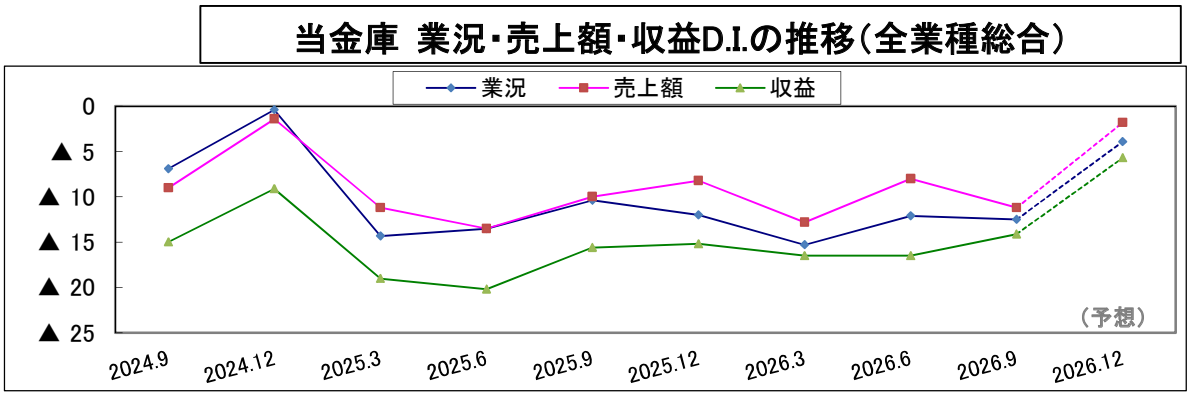
	2025年10～12月	2026年1～3月	2026年4～6月	2026年7～9月	2026年10～12月 来期予想
全業種総合					
製造業					
卸売業					
小売業					
サービス業					
建設業					
不動産業					

低調 ← 天気図 → 好調

この天気図は、景気指標を総合的に判断して作成したものです。

かながわ信用金庫 かなしん

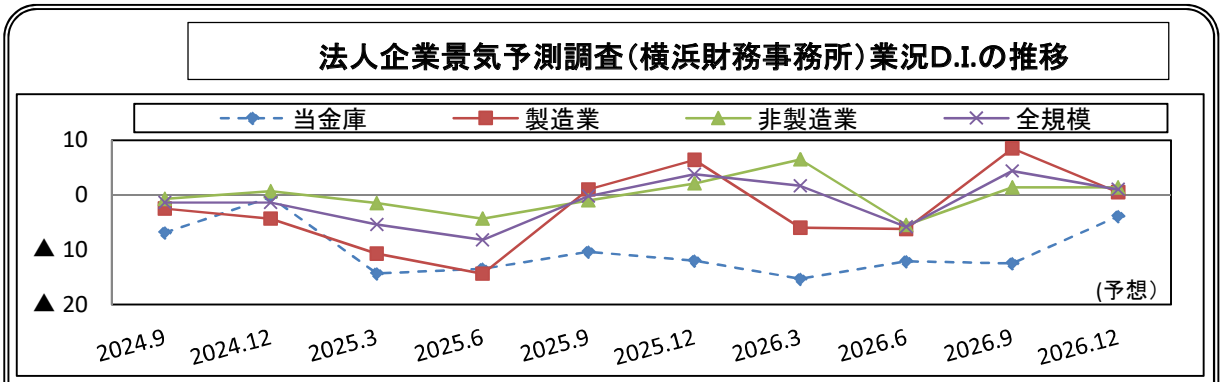
“原材料・資材等、供給不足の顕在化や物価高騰に伴うコスト増加が重荷に”



●当金庫景気動向調査（2026年7～9月期）

・2026年7～9月期の業況判断D.I.は▲12.5と、対前期比0.4ポイントの低下となりました。前回調査時の今期見通し（▲17.1）を4.6 ポイント上回り、来期予想は▲3.9と、8.6ポイントの改善となる見込みです。製造業と非製造業では、製造業は▲4.3と、対前期比2.2ポイントの小幅低下、非製造業では▲14.5と、対前期比0.1ポイントのわずかながら改善となりました。

調査対象先からは、物価高騰に関する意見を多くいただきました。「ナフサ流通減により、ナイロンやビニール、ポリ袋などの包装資材が3割以上値上がりした」（製造業）「今後も、物価上昇が続くとなると不安になる」（卸売業）「物価上昇が収まらない。特に安価帯（安価ゾーン）の上昇が顕著」（小売業）、「資材不足、物価高によるコスト増加分に対し、顧客への価格転嫁が思うようにいかない」（サービス業）、「ナフサ流通減による塩化ビニール加工製品の物流が止まり、建設業界は施工ができない作業現場が多くあり、影響が大きい」（建設業）、「資材仕入れ等の遅れにより工事も遅延し、更に物価高もあり、当初の見積もりより資材価格が上がり、値上がり分をエンドユーザーへの転嫁は難しく利幅は縮小傾向である」（不動産業）等の意見が見られました。



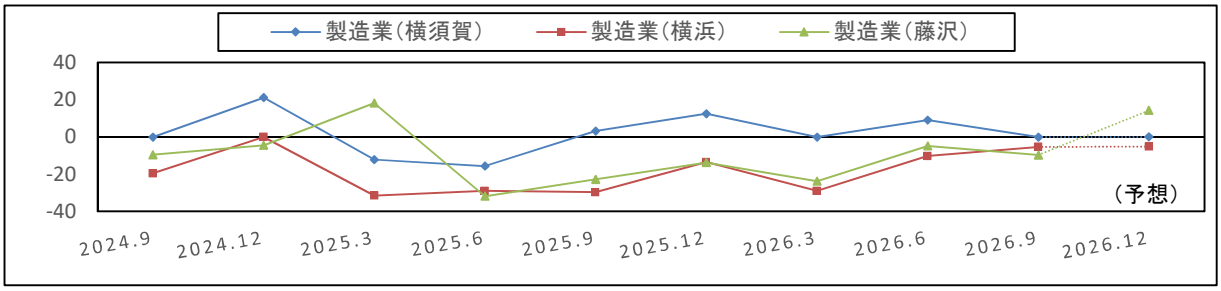
●　法人企業景気予測調査：神奈川県分（2026年7～9月期　全規模、製造業、非製造業）

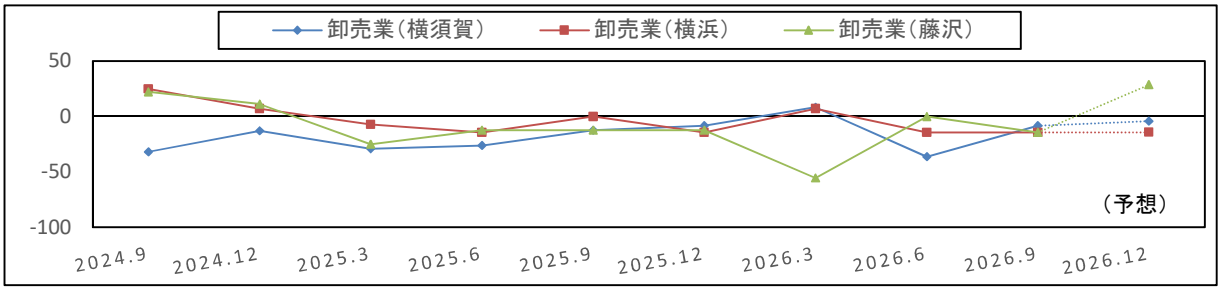
・大企業も含めた全規模・全産業の業況判断D.I.は4.4と、対前期比10.2ポイントの改善となり、2期ぶりにプラス圏に転じました。来期予想は1.0と、3.4ポイントの低下となりますが、プラス圏を維持する見込みです。

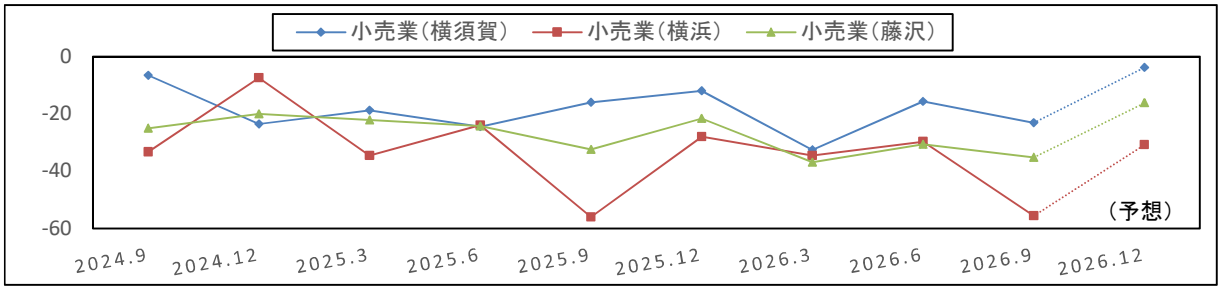
・製造業の業況判断D.I.は8.5と、対前期比14.7ポイントの改善となり、3期ぶりにプラス圏に転じました。自動車・同附属品製造業で、中東危機下において海上輸送が停滞していた自動車産業が代替ルートで輸出が再開され、また新型車投入の好調さも改善要因として挙げられます。

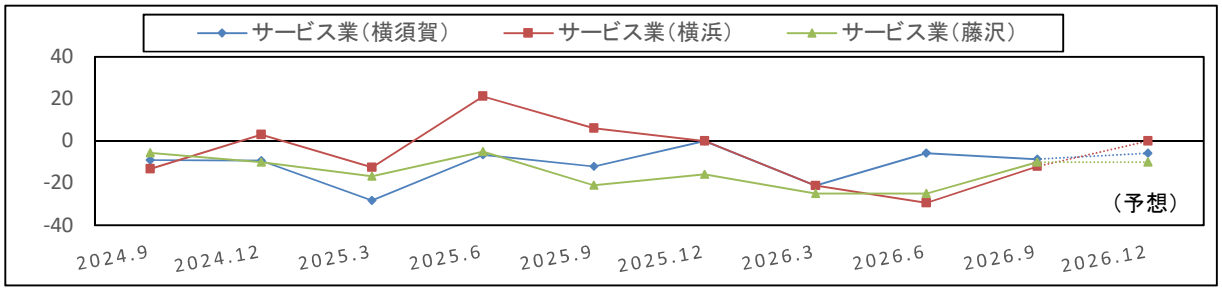
・非製造業の業況判断D.I.は1.4と、対前期比6.9ポイントの改善となり、2期ぶりにプラス圏に転じました。生成AI関連の情報通信業の好調さが、業況改善要因として挙げられます。

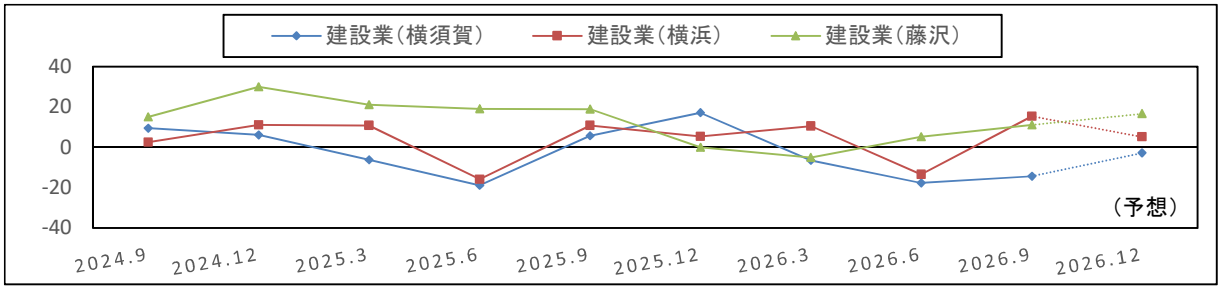
各業種(地区別)の業況の推移(当金庫)

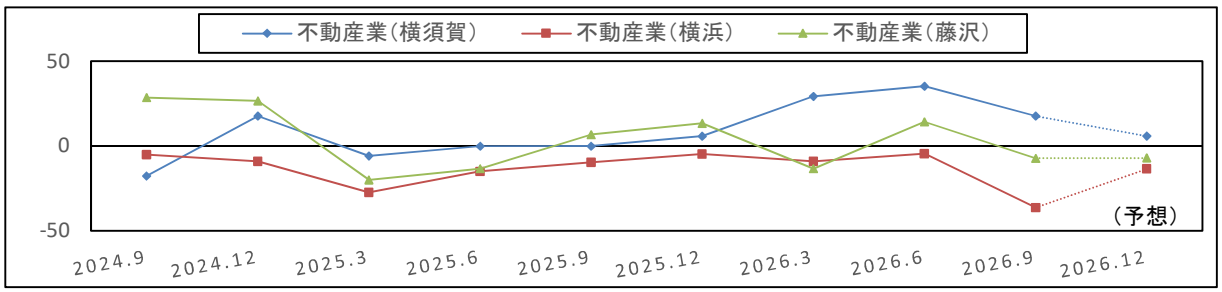






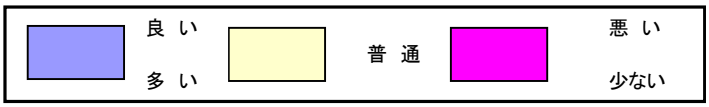






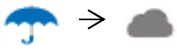
全業種総合 ～業況は建設業が唯一プラス水準に転じ、来期は他の業種も改善の見込み～

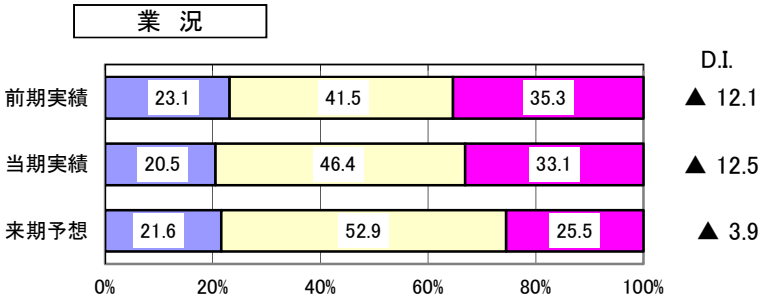
当期実績（2026年7～9月期実績）
来期予想（2026年10～12月期予想）



1. 業　況

当期 → 予想

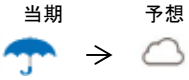


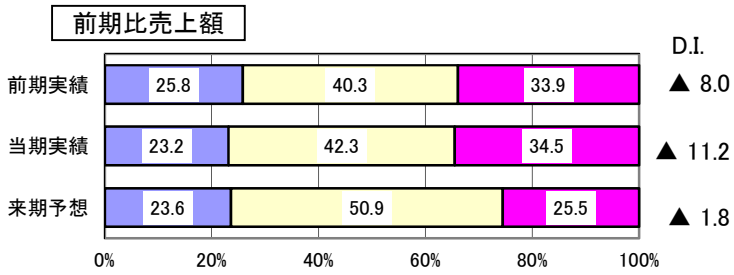


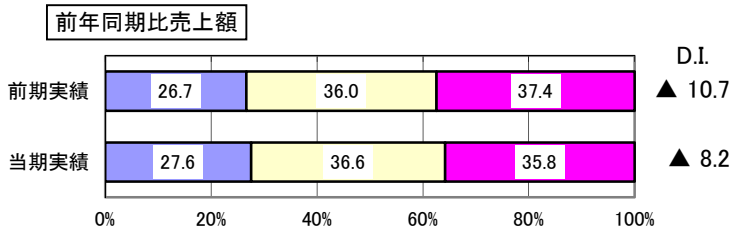
当期の業況判断D.I.は▲12.5と、対前期比0.4ポイントの低下となりました。前回調査時における今期見通し（▲17.1）を4.6ポイント上回りました。業種別に見ると、6業種中、建設業が唯一プラス水準に転じた業種となりました。来期予想については、D.I.は▲3.9と、8.6ポイントの改善となる見込みです。

2. 売上額

当期 → 予想



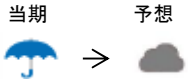


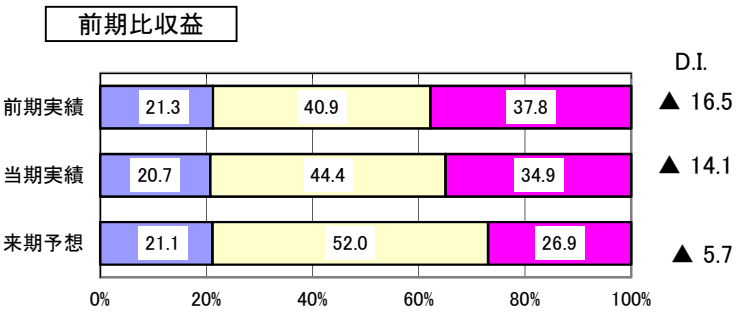


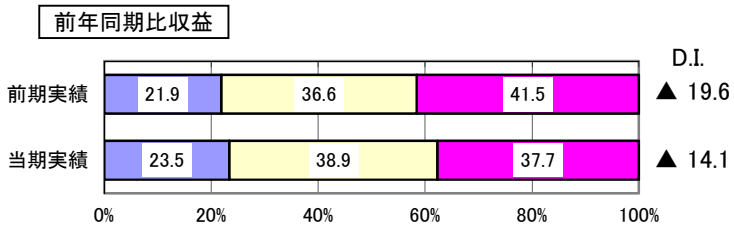
当期の売上額判断D.I.は▲11.2と、対前期比3.2ポイントの低下となりました。業種別に見ると、全業種がマイナス水準となりました。来期予想については、D.I.は▲1.8と、9.4ポイントの改善となる見込みです。対前年同期比の売上額判断D.I.は▲8.2と、4～6月期から2.5ポイントの小幅改善となりました。

3. 収　益

当期 → 予想





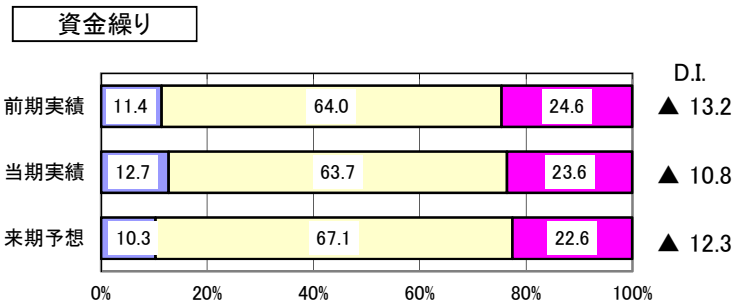


当期の収益判断D.I.は▲14.1と、対前期比2.4ポイントの改善となりました。業種別に見ると、6業種中、製造業が唯一プラス水準に転じた業種となりました。来期予想については、D.I.は▲5.7と、更に8.4ポイントの改善となる見込みです。対前年同期比の収益判断D.I.は▲14.1と、4～6月期から5.5ポイントの改善となりました。

4. 資金繰り

当期 → 予想

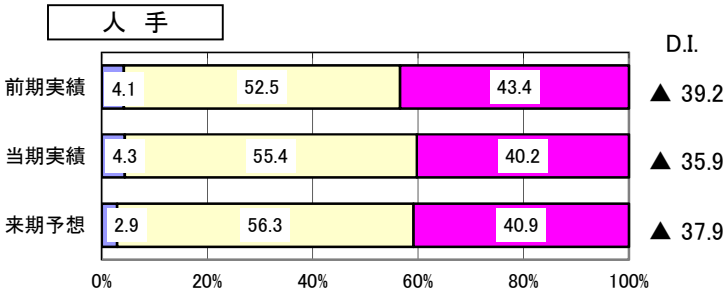
当期の資金繰り判断D.I.は▲10.8と、対前期比2.4ポイントの小幅改善となりました。業種別に見ると、6業種中、建設業が唯一プラス水準に転じた業種となりました。来期予想については、D.I.は▲12.3と、1.5ポイントの小幅低下となる見込みです。



5. 雇　用

当期 → 予想

当期の雇用判断D.I.（過剰-不足）は▲35.9と、対前期比3.3ポイントの改善となりました。雇用については、依然として人手不足感が強く、厳しい水準が続いています。来期予想については、D.I.は▲37.9 と、人手不足感は再び強まる見込みです。

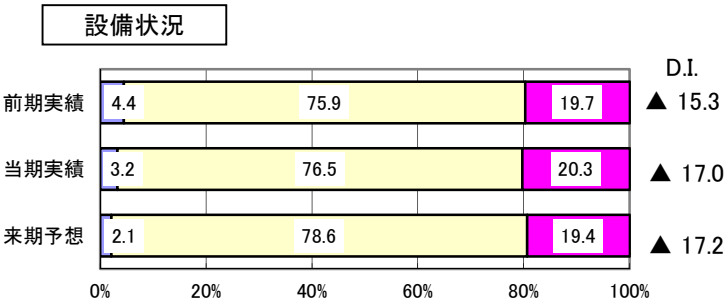


※雇用判断D.I.（過剰－不足） マイナスは人手不足

6. 設備状況

当期 → 予想

当期の設備状況判断D.I.は▲17.0と、対前期比1.7ポイントの小幅低下となりました。来期予想については、D.I.は▲17.2と、不足感はわずかながら低下する見込みです。



神奈川県の金融経済概況（日本銀行横浜支店：2026年9月）のポイント

【総括判断】　神奈川県の景気は、緩やかに回復している。（前回判断引き上げ）

【主な個別項目の特記事項】

➢生産：増加している。（前回判断引き上げ）

・素材関連は、弱めの動きとなっている。輸送機械は、緩やかに増加し、はん用・生産用・業務用機械、電気機械は、増加している。

➢個人消費：一部に弱めの動きもみられるものの、着実に回復している。（前回判断据え置き）

・ドラッグストア販売額は堅調に推移、宿泊施設の客室稼働率、延べ宿泊者数は高めの水準で推移。

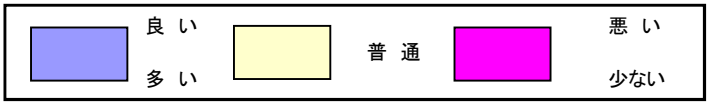
➢住宅投資：持ち直している。（前回判断据え置き）

・2026年7月の新設住宅着工戸数は、賃家、分譲マンション、分譲戸建て、持家がいずれも減少したことから、全体では前年を下回った。

【先行きのリスク要因】中東情勢等の影響による物価上昇が、設備投資や個人消費への下振れ要因。

製 造 業 ～業況は連続してマイナス水準となるも、来期はプラス水準に転じる見込み～

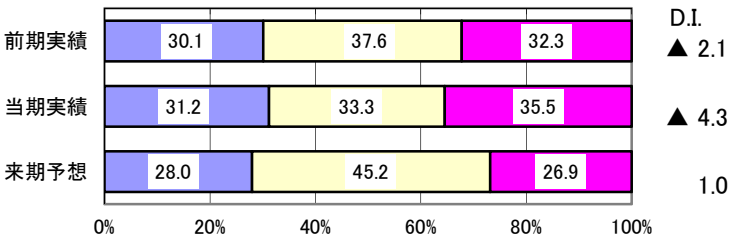
当期実績（2026年7～9月期実績）
来期予想（2026年10～12月期予想）



1. 業　況

当期 → 予想

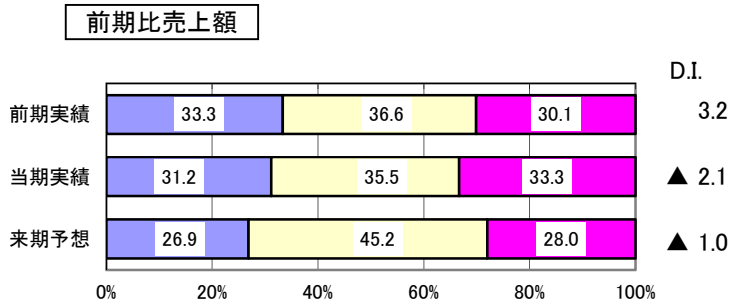
当期の業況判断D.I.は▲4.3と、対前期比2.2ポイントの小幅低下となりました。前回調査時における今期見通し（▲17.2）を12.9ポイント上回りました。来期予想については、D.I.は1.0と、5.3ポイントの改善となり、プラス水準に転じる見込みです。

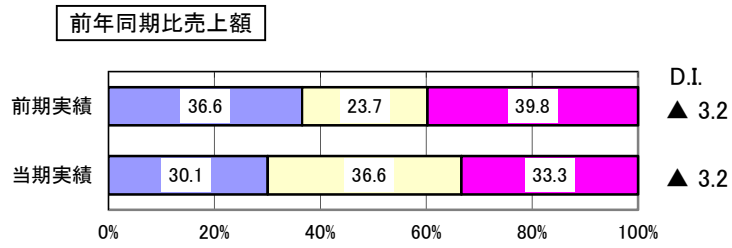


2. 売 上 額

当期 → 予想

当期の売上額判断D.I.は▲2.1と、対前期比5.3ポイントの低下となり、再びマイナス水準に転じました。来期予想については、D.I.は▲1.0と、1.1ポイントの小幅改善となる見込みです。対前年同期比の売上額判断D.I.は▲3.2と、4～6月期から横ばいの推移となりました。

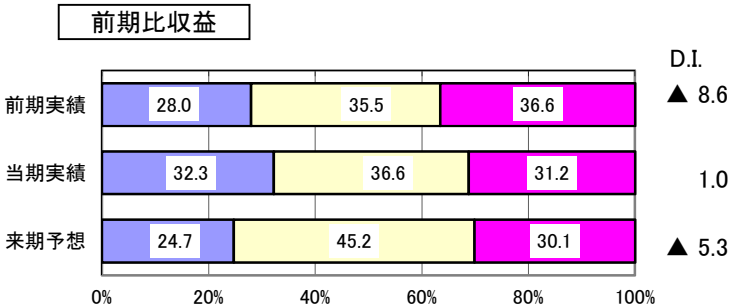


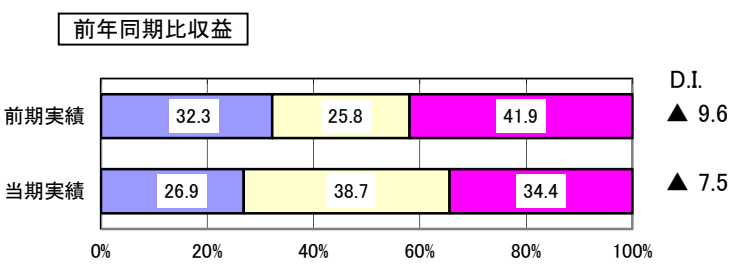


3. 収　益

当期 → 予想

当期の収益判断D.I.は1.0と、対前期比9.6ポイントの改善となり、6業種中、唯一プラス水準に転じた業種となりました。来期予想については、D.I.は▲5.3と、6.3ポイントの低下となる見込みです。対前年同期比の収益判断D.I.は▲7.5と、4～6月期から2.1ポイントの小幅改善となりました。

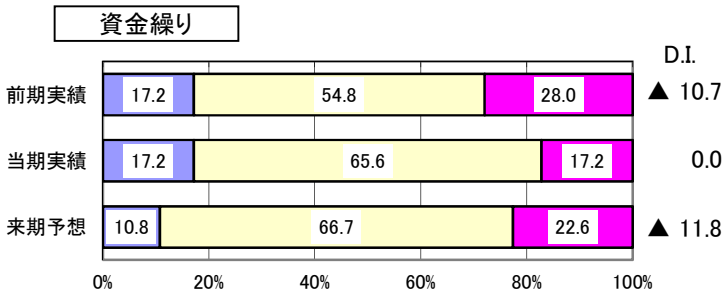




4. 資金繰り

当期 → 予想

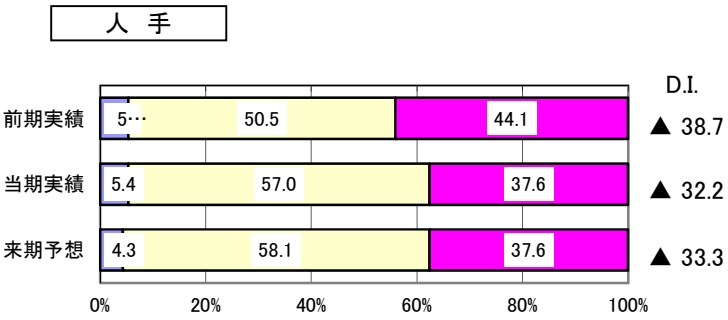
当期の資金繰り判断D.I.は0.0と、対前期比10.7ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲11.8と、11.8ポイントの低下となる見込みです。



5. 雇　用

当期 → 予想

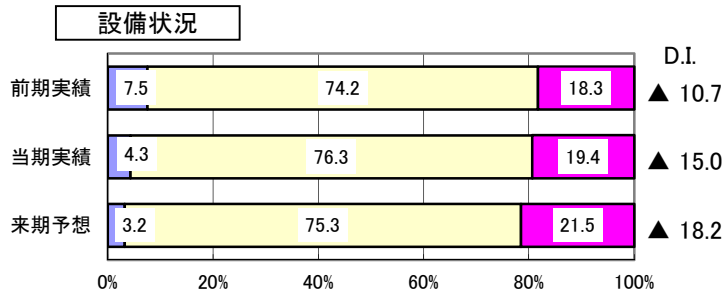
当期の雇用判断D.I.（過剰-不足）は▲32.2と、対前期比6.5ポイントの改善となりましたが、依然厳しい水準で推移しています。来期予想については、D.I.は▲33.3と、人手不足感は、小幅に強まる見込みです。



6. 設備状況

当期 → 予想

当期の設備状況判断D.I.は▲15.0と、対前期比4.3ポイントの低下となりました。来期予想については、D.I.は▲18.2と、不足感は更に強まる見込みです。



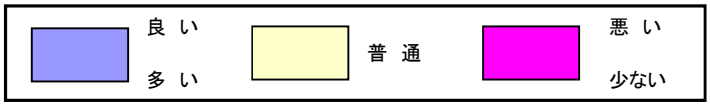
調 査 先 の コ メ ン ト

○7月からアルミ板の価格が大幅に上がり、迅速な価格転嫁をしないと利益が悪化する。
○油類は調達可能になったが、価格が値上がりし経費を押し上げている。工具類はレアアースの問題により、超硬の工具は3～5倍に高騰している。
○工作機械の作動油（潤滑油）の入荷状況は、相変わらず遅れ、原油市場も好転の状況にはない。
○ナフサ流通減により、ナイロンやビニール、ポリ袋などの包装資材が3割以上値上がりした。
○原材料や部材、消耗品の価格の値上がりが止まらない。
○中東情勢が緊張すると原油やガスの供給不足が意識されやすく、燃料費や電気代、物流費の上昇に繋がりやすい。製造業では原材料費、輸送費、包装費などが上がる一方、販売価格へ十分上乗せできない企業も多く、利益が圧迫されやすい。加えて、人手不足と賃上げ圧力も重なりコスト増が長引きやすい。そのため価格交渉の見直し、省エネ、生産性向上、調達先の分散、支援先の活用が重要になると感じている。
○生産者物価指数（PPI）の上昇が、容器等の価格上昇の度合いにインパクトが大きい。
○自動車部品製造に伴う直接材、間接材共に仕入価格が高騰し、利益を圧迫している。日産関連の影響も変わらず続いている。
○鋼材単価は高値で推移しており、エンドユーザーにも加工賃の値上がりが反映されつつあります。
○材料含め、仕入価格が日々値上がりしているため、見積もりの有効期限を1か月以内としている。

以下17ページに記載

卸 売 業　～業況・収益共にマイナス水準ながら改善に、来期は更に改善の見込み～

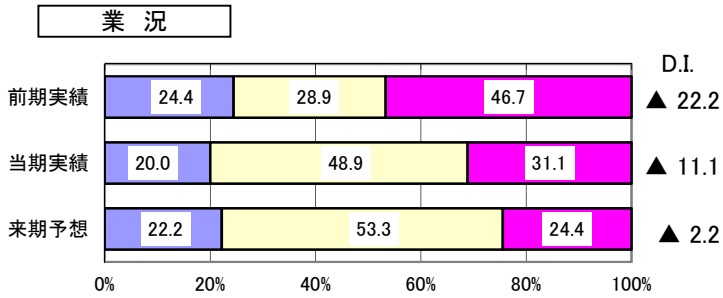
当期実績（2026年7～9月期実績）
来期予想（2026年10～12月期予想）



1. 業　況

当期 → 予想

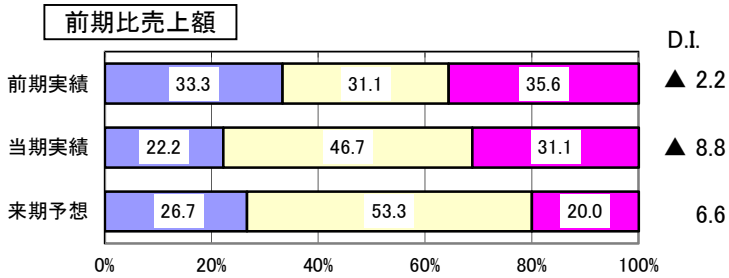
当期の業況判断D.I.は▲11.1と、対前期比11.1ポイントの改善となりました。前回調査時における今期見通し（▲20.0）を8.9ポイント上回りました。来期予想については、D.I.は▲2.2と、更に8.9ポイントの改善となる見込みです。

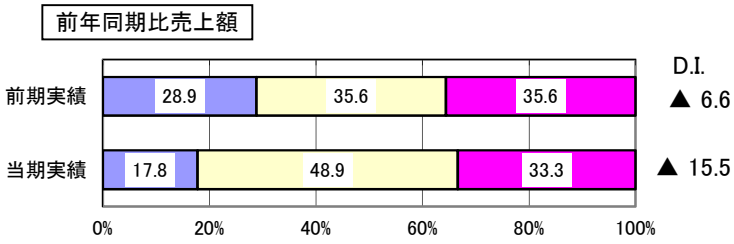


2. 売 上 額

当期 → 予想

当期の売上額判断D.I.は▲8.8と、対前期比6.6ポイントの低下となりました。来期予想については、D.I.は6.6と、15.4ポイントの改善となり、4期ぶりにプラス水準に転じる見込みです。対前年同期比の売上額判断D.I.は▲15.5と、4～6月期から8.9ポイントの低下となりました。

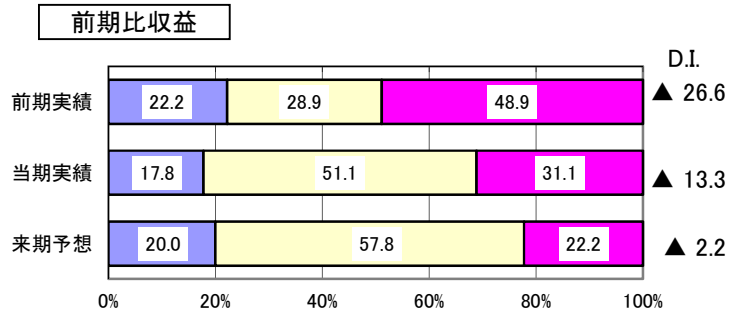


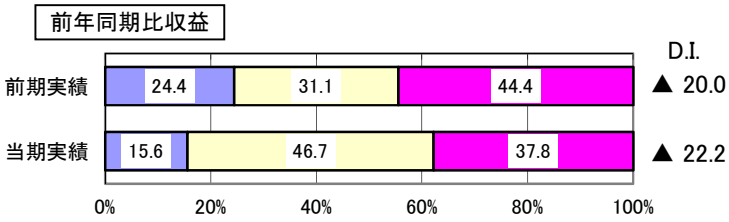


3. 収　益

当期 → 予想

当期の収益判断D.I.は▲13.3と、対前期比13.3ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲2.2と、更に11.1ポイント改善する見込みです。対前年同期比の収益判断D.I.は▲22.2と、4～6月期から2.2ポイントの低下となりました。

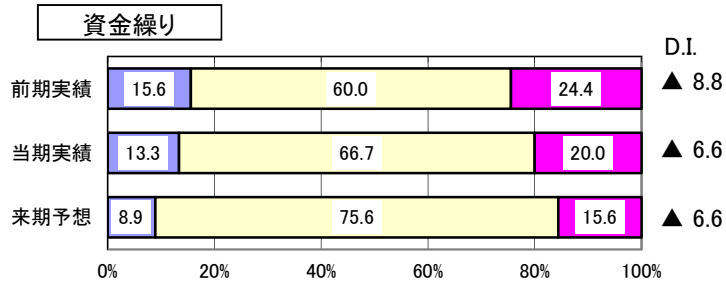




4. 資金繰り

当期 → 予想

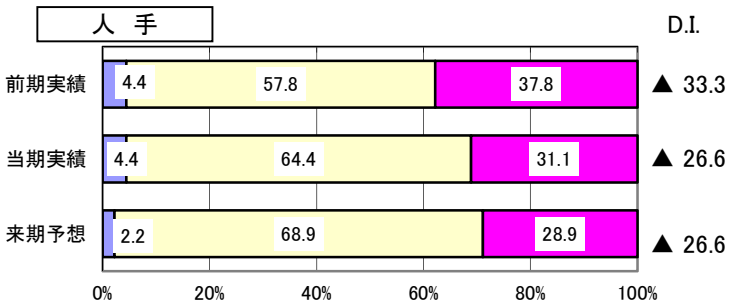
当期の資金繰り判断D.I.は▲6.6と、対前期比2.2ポイントの小幅改善となりました。来期予想については、D.I.は▲6.6と、横ばいで推移する見込みです。



5. 雇　用

当期 → 予想

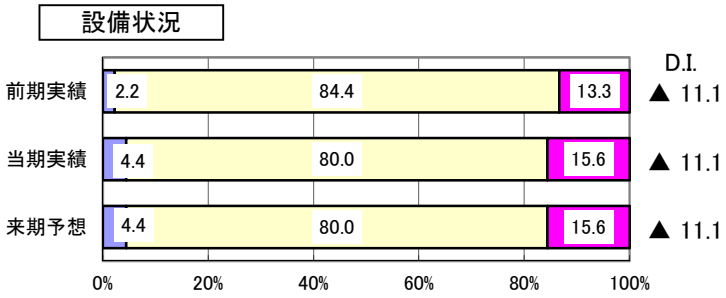
当期の雇用判断D.I.（過剰−不足）は▲26.6と、対前期比6.7ポイントの改善となりましたが、人手不足感は依然として厳しい水準にあります。来期予想については、D.I.は▲26.6と、人手不足感は横ばいで推移する見込みです。



6. 設備状況

当期 → 予想

当期の設備状況判断D.I.は▲11.1と、対前期比、横ばいで推移となりました。来期予想については、D.I.は▲11.1と、引き続き横ばいで推移する見込みです。

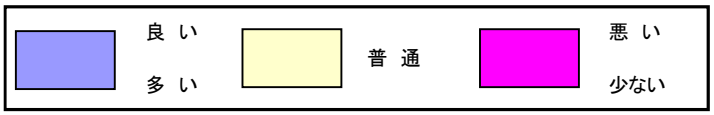


調 査 先 の コ メ ン ト

○仕入コストの上昇が止まらず、市況に悪い影響を与えている。
○電気代、物流費の影響が大きい。
○今後も、物価上昇が続くとなると不安になる。
○中東情勢や物価高等による影響は、それほどありません。
○海苔・お茶等卸売業については、今現在ナフサ等流通減による大きな影響はない。
○商品仕入価格の上昇分を、適正に商品価格に転嫁したい。
○中東情勢の大きな影響はないが、物価等上昇の影響は感じている。
○原材料価格の上昇基調が、問題視されています。
○直接の影響は少ないが、仕入商品が高くなるなど全く影響がないわけではない。
○物価高の影響により、買い控えなど売上減少と共に収益も減少している。
○中東情勢の影響は落ち着きつつあると思います。但し、価格は上昇していましたが、多少下がってきたようです。幸い価格転嫁もできているので影響は少ないですが、売上自体が低下している。

小 売 業　～業況、売上、収益共に最も厳しい水準となるも、来期は改善の見込み～

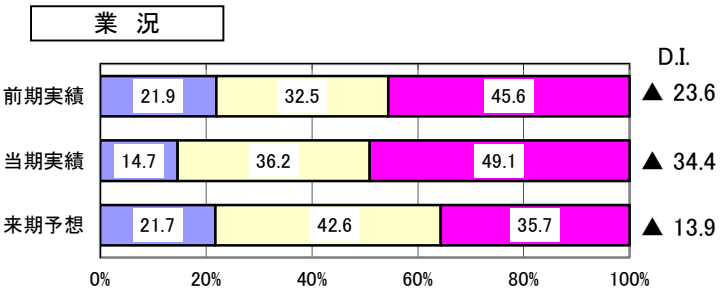
当期実績（2026年7～9月期実績）
来期予想（2026年10～12月期予想）



1. 業　況

当期 → 予想

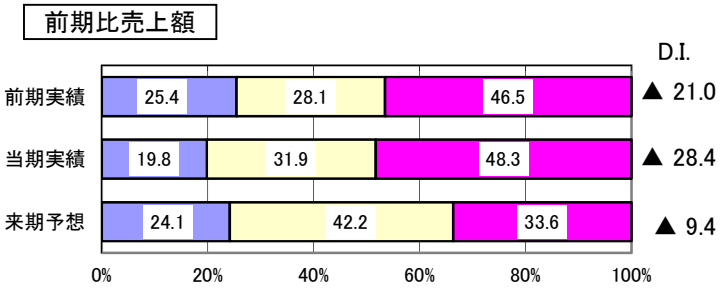
当期の業況判断D.I.は▲34.4と、対前期比10.8ポイントの低下となり、6業種中、マイナス水準が最も大きい業種となりました。前回調査時における今期見通し（▲24.5）を9.9ポイント下回りました。来期予想については、D.I.は▲13.9と、20.5ポイントの大幅改善となる見込みです。

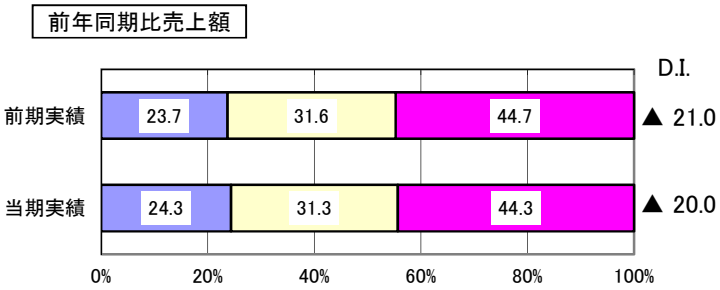


2. 売 上 額

当期 → 予想

当期の売上額判断D.I.は▲28.4と、対前期比7.4ポイントの低下となり、6業種中、マイナス水準が最も大きい業種となりました。来期予想については、D.I.は▲9.4と、19.0ポイントの改善となる見込みです。対前年同期比の売上額判断D.I.は▲20.0と、4～6月期から1.0ポイントの小幅改善となりました。

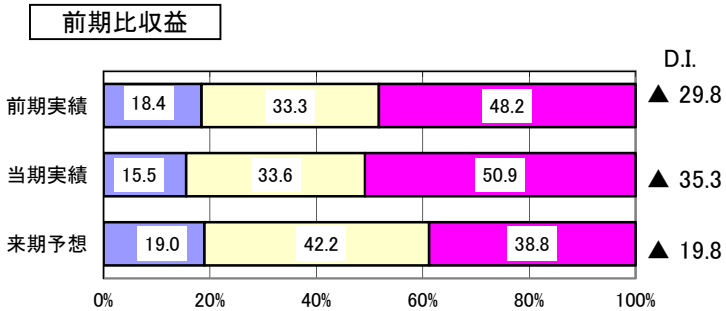


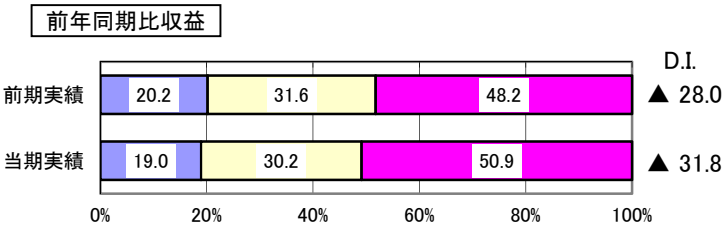


3. 収　益

当期 → 予想

当期の収益判断D.I.は▲35.3と、対前期比5.5ポイントの低下となり、6業種中、マイナス水準が最も大きい業種となりました。来期予想については、D.I.は▲19.8と、15.5ポイントの改善となる見込みです。対前年同期比の収益判断D.I.は▲31.8と、4～6月期から3.8ポイントの低下となりました。

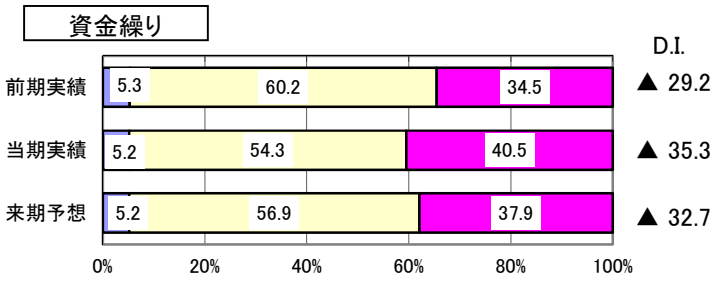




4. 資金繰り

当期 → 予想

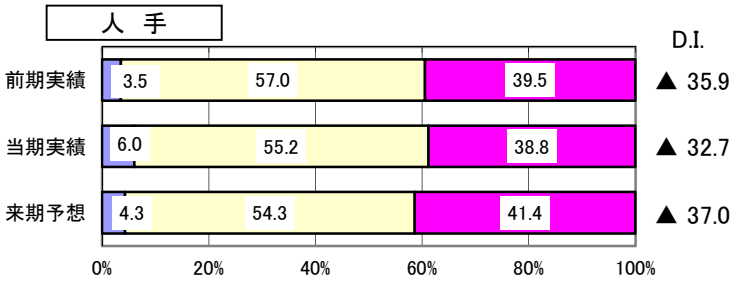
当期の資金繰り判断D.I.は▲35.3と、対前期比6.1ポイントの低下となり、資金繰りは6業種中、最も厳しい水準の業種となりました。来期予想については、D.I.は▲32.7と、2.6ポイントの小幅改善となる見込みです。



5. 雇　用

当期 → 予想

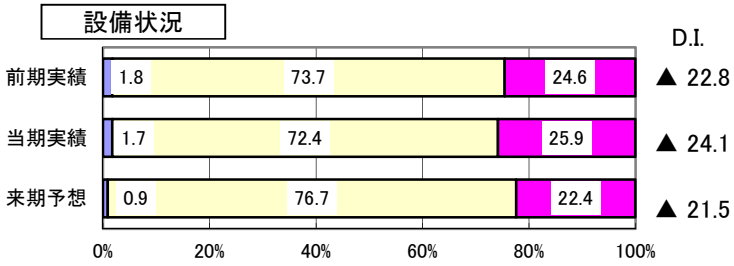
当期の雇用判断D.I.（過剰-不足）は▲32.7と、対前期比3.2ポイントの改善となりましたが、依然として厳しい水準となりました。来期予想については、D.I.は▲37.0と、人手不足感は再び強まる見込みです。



6. 設備状況

当期 → 予想

当期の設備状況判断D.I.は▲24.1と、対前期比1.3ポイントの小幅低下となりました。来期予想については、D.I.は▲21.5と、不足感は緩和する見込みです。

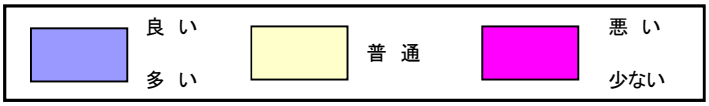


調 査 先 の コ メ ン ト

○原油高のため鮪船が出ないので、漁獲量の減少により、魚介類の価格高騰が続いている。
○今年に入り備蓄米の放出や収穫の豊作から米余りが現実化し、スーパーには昨年には無かった業者名のお米が見られるようになった。
○ナフサの流通減少により、接着剤などの流通不足と値上がりなどの影響を受けている。
○材料費全てが値上がりしている。
○車両のエンジンオイルの仕入価格が、昨年の倍を超えてきている。部品等の値上がりも激しく、苦労している。その他、過度な円安などが改善されない限り、先行き不安です。
○仕入れの生花価格が高値止まりで、大変苦しい。
○商品や材料の仕入額が値上がりしている。包装材などで、一部品切れや品不足が発生している。
○原油不足により仕入商品の価格が上昇するなど、供給が不安定である。
○石油製品の値上がりが大きい。輸入材料の入荷が安定せず、価格が高騰している。
○物価上昇が収まらない。特に安価帯（安価ゾーン）の上昇が顕著。
○仕入価格の上昇が毎月続いており、収益面を圧迫している。また、納品先保護のため、値上げ前に数ヶ月分を先行仕入れして旧価格で納品する努力を続けています。
○純正修理部品は、特に価格が上がっている。

サービス業　～業況、収益等はマイナス水準ながら改善へ、来期は更に改善の見込み～

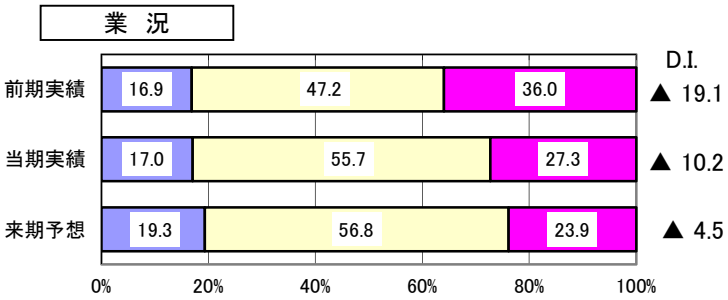
当期実績（2026年7～9月期実績）
来期予想（2026年10～12月期予想）



1. 業　況

当期 → 予想

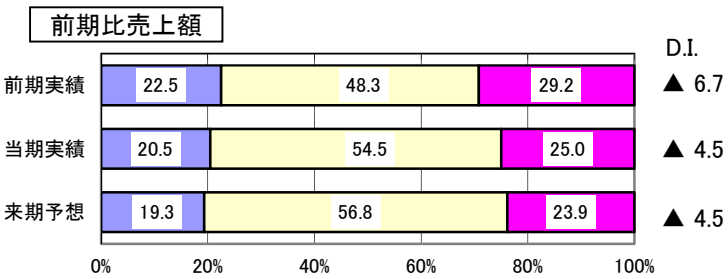
当期の業況判断D.I.は▲10.2と、対前期比8.9ポイントの改善となりました。前回調査時における今期見通し（▲22.4）を12.2ポイント上回りました。来期予想については、D.I.は▲4.5と、更に5.7ポイントの改善となる見込みです。

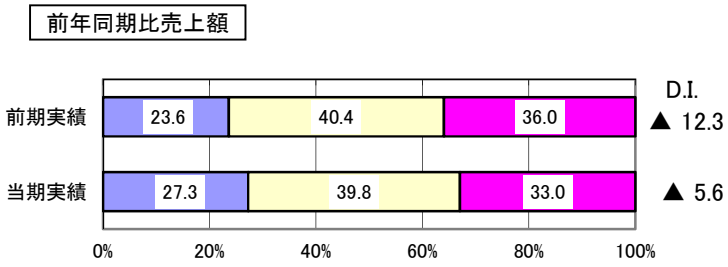


2. 売上額

当期 → 予想

当期の売上額判断D.I.は▲4.5と、対前期比2.2ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲4.5と、横ばいで推移する見込みです。対前年同期比の売上額判断D.I.は▲5.6と、4～6月期から6.7ポイントの改善となりました。

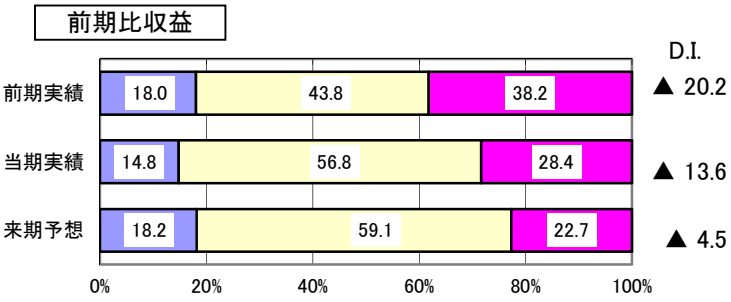


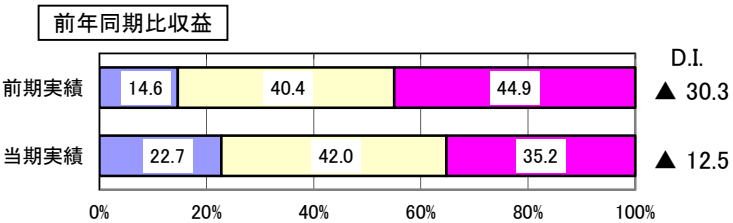


3. 収　益

当期 → 予想

当期の収益判断D.I.は▲13.6と、対前期比6.6ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲4.5と、更に9.1ポイントの改善となる見込みです。対前年同期比の収益判断D.I.は▲12.5と、4～6月期から17.8ポイントの改善となりました。

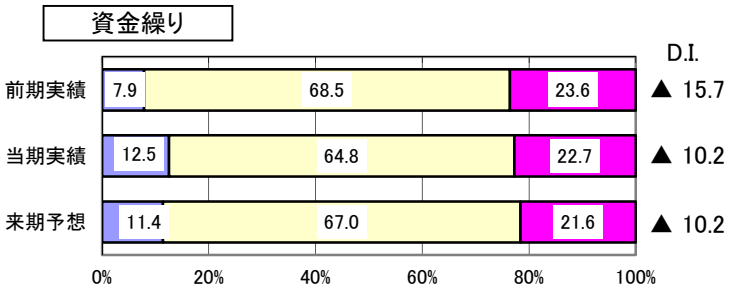




4. 資金繰り

当期 → 予想

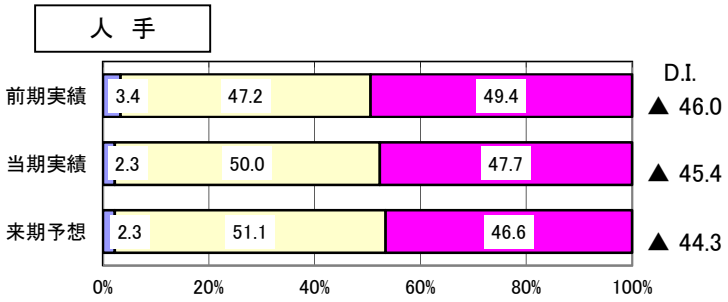
当期の資金繰り判断D.I.は▲10.2と、対前期比5.5ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲10.2と、横ばいで推移する見込みです。



5. 雇　用

当期 → 予想

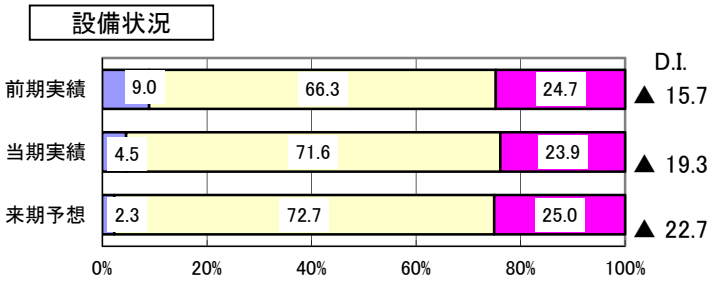
当期の雇用判断D.I.（過剰－不足）は▲45.4と、対前期比0.6ポイントの小幅改善となりましたが、6業種中、人手不足感が、最も厳しい水準の業種となりました。来期予想については、D.I.は▲44.3と、人手不足感は更に小幅緩和しますが、依然として厳しい水準が続く見込みです。



6. 設備状況

当期 → 予想

当期の設備状況判断D.I.は▲19.3と、対前期比3.6ポイントの低下となりました。来期予想については、D.I.は▲22.7と、不足感は更に強まる見込みです。

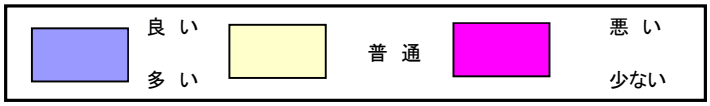


調 査 先 の コ メ ン ト

○原材料の減少により、鋼材や建材などの物流量も大幅に減少している。
○物価高騰など、世の中の動向で消費が減っている。
○ナフサ問題以降、ユーザーの動きが慎重になっている感じがする。現在は燃料高騰以降値上げをし、確実な仕入れができる業者と取引するなど変化があった。
○前回に比べ、経費が増加している。使用している事務用品も仕入先から1～2割を値上げされた。
○クリーニングの資材、特にハンガーなどのプラスチック製品やビニール類の値上げの影響が大きい。
○特に、車両のオイル等の仕入れが高くなっている。
○石炭・石油・天然ガスなどの化石燃料に由来する製品類の価格上昇により、コストが増加している。
○資材不足、物価高によるコスト増加分に対し、顧客への価格転嫁が思うようにいかない。
○材料に原油由来の品が多く軒並み値上がりしたため、併せて価格転嫁を行った。
○トラックの納車ができなくて、困っている。

建 設 業　～業況は再びプラス水準に転じ、来期もプラス水準を維持する見込み～

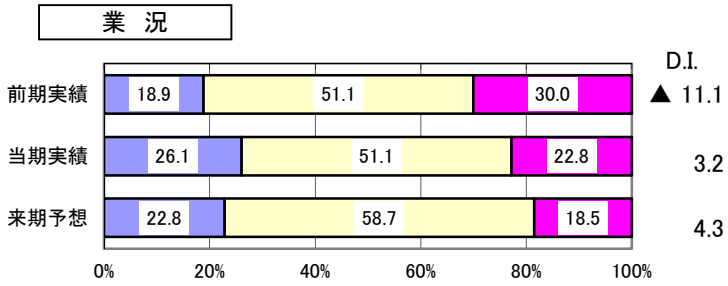
当期実績（2026年7～9月期実績）
来期予想（2026年10～12月期予想）



1. 業　況

当期 → 予想

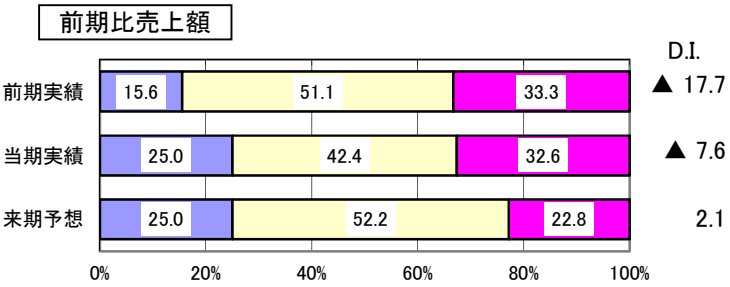
当期の業況判断D.I.は3.2と、対前期比14.3ポイントの改善となり、6業種中、唯一プラス水準に転じた業種となりました。前回調査時における今期見通し（▲4.4）を7.6ポイント上回りました。来期予想については、D.I.は4.3と、更に1.1ポイントの小幅改善となる見込みです。

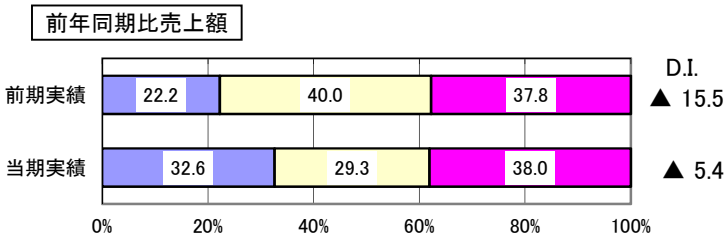


2. 売 上 額

当期 → 予想

当期の売上額判断D.I.は▲7.6と、対前期比10.1ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は2.1と、9.7ポイントの改善となり、3期ぶりにプラス水準に転じる見込みです。対前年同期比の売上額判断D.I.は▲5.4と、4～6月期から10.1ポイントの改善となりました。

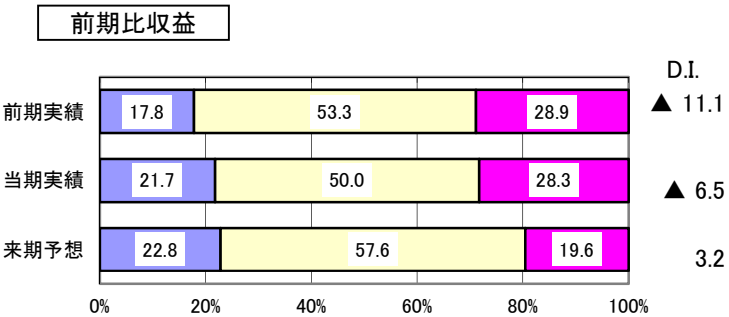


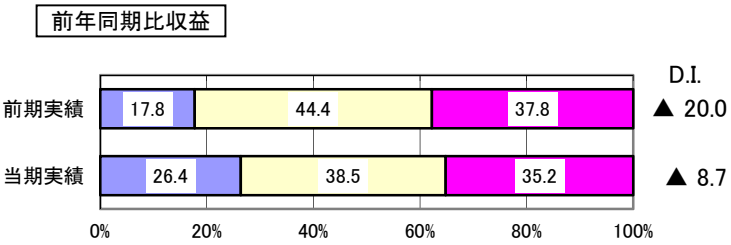


3. 収　益

当期 → 予想

当期の収益判断D.I.は▲6.5と、対前期比4.6ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は3.2と、9.7ポイントの改善となり、プラス水準に転じる見込みです。対前年同期比の収益判断D.I.は▲8.7と、4～6月期から11.3ポイントの改善となりました。

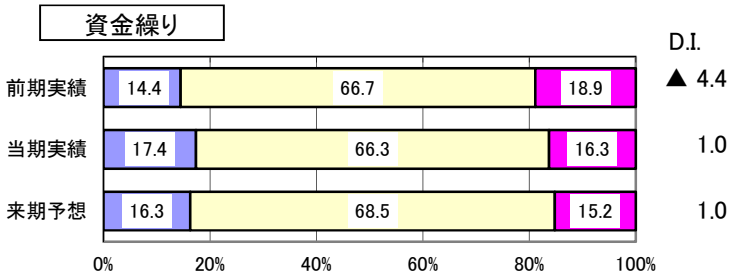




4. 資金繰り

当期 → 予想

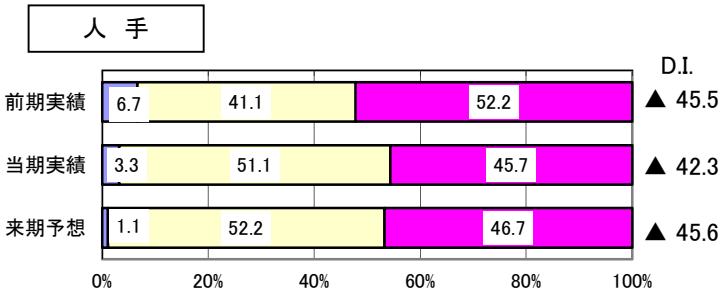
当期の資金繰り判断D.I.は1.0と対前期比5.4ポイントの改善となり、プラス水準に転じました。来期予想については、D.I.は1.0と、横ばいで推移する見込みです。



5. 雇　用

当期 → 予想

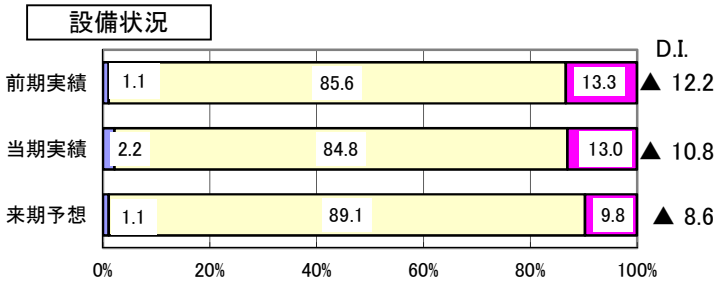
当期の雇用判断D.I.（過剰－不足）は▲42.3と、対前期比3.2ポイントの改善となりましたが、6業種中、サービス業に次いで厳しい水準の業種となりました。来期予想については、D.I.は▲45.6と、人手不足感は再び強まる見込みです。



6. 設備状況

当期 → 予想

当期の設備状況判断D.I.は▲10.8と、対前期比1.4ポイントの小幅改善となりました。来期予想については、D.I.は▲8.6と、不足感は更に緩和する見込みです。



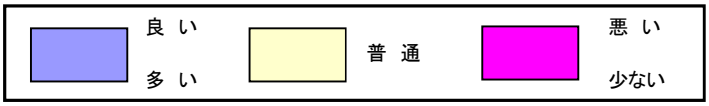
調 査 先 の コメント

○原材料費が高騰しており、その上、景気動向の先行き見通しに不安定要素が多く不安を感じている。
○部品納入の納期遅れや塗料等の不足により、工事全体が遅れている。
○原料、資材不足による製造低迷の影響なのか、設備投資を差し控える兆候がある。
○中東情勢による建築資材の供給は一時の入手困難は解消しつつある。しかし、資材の価格は高止まりしており、今後も高騰が続く見込み。人手不足は年々厳しい状況が増しており、人手不足による受注回避も予想される。
○ナフサ流通減による塩化ビニール加工製品の物流が止まり、建設業界は施工ができない作業現場が多くあり、影響が大きい。
○工事に必要な材料の入荷が、以前より時間がかかるようになった。特に、照明器具関係が遅れているため工期などに影響が出ている。原材料の価格は工事原価に反映できるので大きな問題はないが、人件費の高騰による利益率の低下は出ている。
○道路工事の主材料であるアスファルト合材の公共単価が、7月の設計工事から約25%アップとなったが、発注までに2か月ほどかかり、更に2か月後の施工時期を考えると、その時点での購入単価がどうなっているのか予想もつかない。

以下17ページに記載

不動産業　～業況、売上、収益共にマイナス水準に転じるも、来期は改善の見込み～

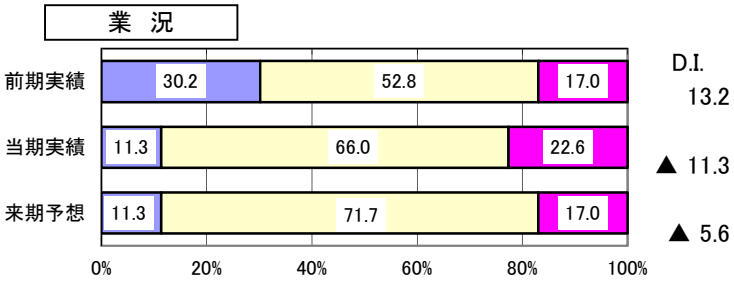
当期実績（2026年7～9月期実績）
来期予想（2026年10～12月期予想）



1. 業　況

当期 → 予想

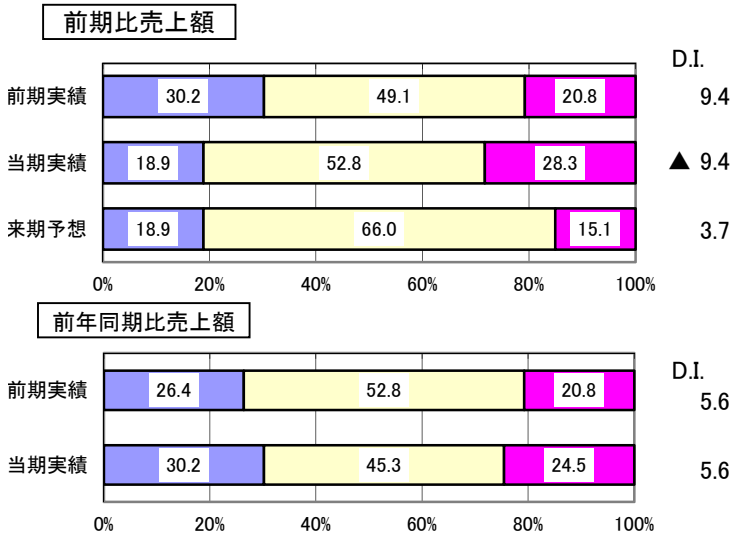
当期の業況判断D.I.は▲11.3と、対前期比24.5ポイントの大幅低下となり、マイナス水準に転じました。前回調査時における今期見通し（▲11.3）と同じ指数となりました。来期予想については、D.I.は▲5.6と、5.7ポイントの改善となる見込みです。



2. 売上額

当期 → 予想

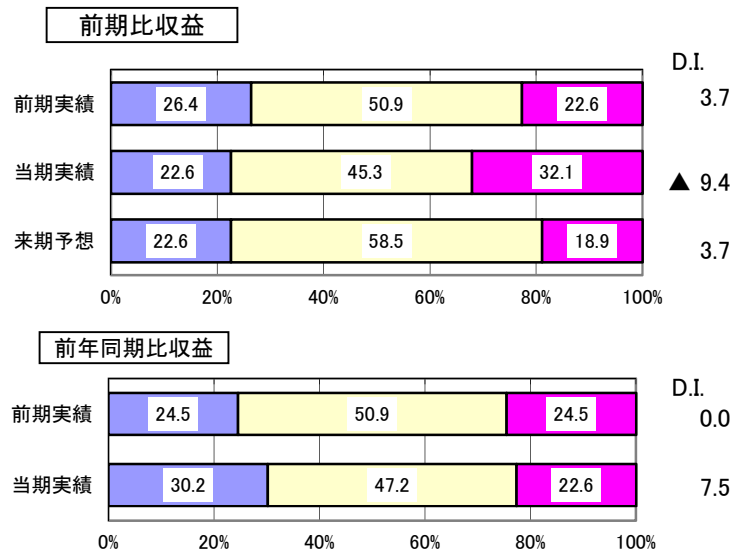
当期の売上額判断D.I.は▲9.4と、対前期比18.8ポイントの低下となり、マイナス水準に転じました。来期予想については、D.I.は3.7と、13.1ポイントの改善となり、再びプラス水準に転じる見込みです。対前年同期比の売上額判断D.I.は5.6と、4～6月期から横ばいの推移となりました。



3. 収　益

当期 → 予想

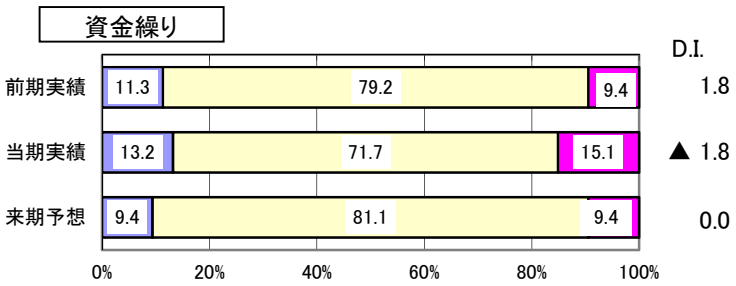
当期の収益判断D.I.は▲9.4と、対前期比13.1ポイントの低下となり、マイナス水準に転じました。来期予想については、D.I.は3.7と、13.1ポイントの改善となり、再びププラス水準に転じる見込みです。対前年同期比の収益判断D.I.は7.5と、4～6月期から7.5ポイントの改善となりました。



4. 資金繰り

当期 → 予想

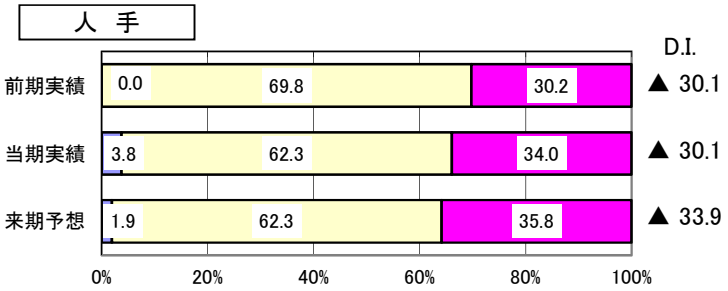
当期の資金繰り判断D.I.は▲1.8と、対前期比3.6ポイントの低下となり、再びマイナス水準に転じました。来期予想については、D.I.は0.0と、1.8ポイント小幅改善となる見込みです。



5. 雇　用

当期 → 予想

当期の雇用判断D.I.（過剰－不足）は▲30.1と、対前期比、横ばいで推移となりました。来期予想については、D.I.は▲33.9と、人手不足感は再び強まる見込みです。



調 査 先 の コ メ ン ト

○建売販売の場合、中東情勢に起因するナフサショックによる住宅資材等の供給に遅れが生じている。
○中東情勢の不安定化により、今後、更に影響が深刻化していく様相であり、先の姿が見えてこない。
○資材仕入れの遅れにより工事も遅延し、更に物価高もあり、当初の見積もりより資材価格が上がっている。値上がり分をエンドユーザーへの転嫁は難しく利幅が縮小傾向である。
○中東情勢の緊迫化により、建築・土木・水道工事に必要な資材の調達難や価格高騰、職人不足等の影響が深刻化している。仕入れた物件の解体工事までは進められても、その後の宅地造成工事に着手できず、工事時期や工期の見通しが立たないケースもある。
○中東情勢の混迷などを起因とする原油価格の高騰や原材料等の調達困難な状況から、コストが20～50%上昇している。

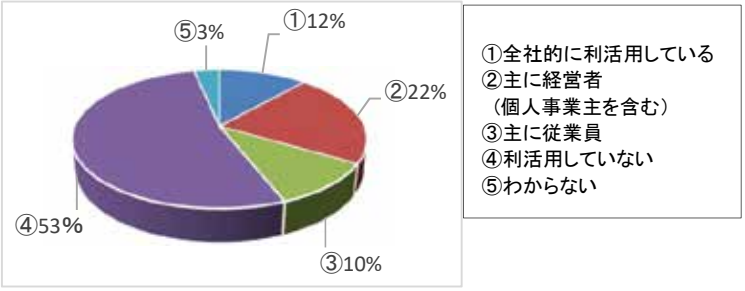
調 査 先 の コ メ ン ト

（製造業）　＊追加分
○商品を包装する包装資材の高騰が、あらゆる面で影響がある。現在も仕入価格が上昇している。
○原材料やナフサ価格、物流等への影響が顕在化し、海外からの代替材料を調達する運転資金、輸入に関する各種手続きや許可、通関等への対応、そして非常時に企業が事業と供給を継続するための資金面や手続き面での支援を迅速に講じていただくよう望みます。
（建設業）
○昨年の改正建築基準法・省エネ法全面施行以降、建築確認申請許可が長期化している。
○電気関係資材や通信資材等の流通減少により、価格上昇や納期延期など影響が出ている。
○資材の出荷制限により、大型案件が延期となっている。
○管財や塗料などの資材不足、現在は戻した感もあるが、依然として高値のままである。

特別調査 ・・・・・・・・・・「中小企業における生成AIの利活用について」

1.業務上での生成AI（Chat GPT等）の利活用について

生成AIの利活用については、④「利活用していない」が53%と最も多く、次いで②「主に経営者（個人事業主を含む）」が22%、①「全社的に利活用」が12%を占めました。利活用しているが全体の44%（①＋②＋③）に対し、利活用していないが53%と、上回るなど、利活用については一定程度広がっているものの、全体としては、道半ばと言えます。



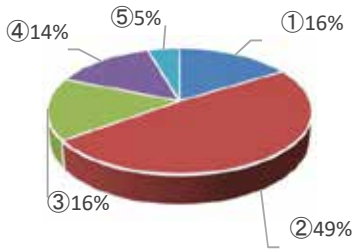
2.生成AIを業務上で利活用する場合の用途および利活用していない場合の用途への関心について

生成AIを利活用する場合の用途や利活用していない場合の用途への関心については、「文章作成（メール・案内文・議事録）」が51%と最も多く、次いで「データ分析（売上・顧客動向等）」と「販促文章の作成（SNS投稿、チラシ文面等）がそれぞれ23%、「アイデア出し・経営戦略策定」が22%を占めました。一方、「利活用しておらず関心がない」とした回答も3割近く占めました。　（最大3つまで複数回答）

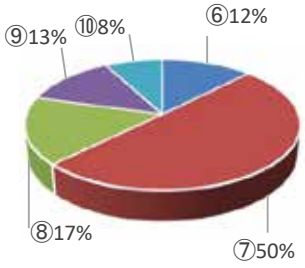
3.生成AIを業務上で利活用する上での課題および利活用していない理由について

生成AIを利活用する上での課題については「情報漏えい・セキュリティ面の不安」が40%と最も多く、次いで「出力内容の正確性への不安」が30%、「利用に際する社内ルールの未整備」が22%を占め、運用面でのセキュリティや管理体制を課題と受け止めていることが分かります。また、「推進できる人材がいない」が17%、「業務上での活用方法が分からない」が14%を占め、利活用していない理由として挙げられます。一方、「特にない」とした回答も24%見受けられました。　（最大3つまで複数回答）

4.中東情勢の混迷等による原材料や商品等調達（仕入れ）に際して、価格面以外で生じている支障について



【直近（6か月程度）】
①かなり支障が生じている
②一部支障が生じている
③あまり支障は生じていない
④特に問題なく通常どおり
⑤該当なし・分からない
＊支障を生じている
①＋②＝65%
＊支障を生じていない
③＋④＝30%



【今後（6か月程度）】
⑥かなり支障が生じる見込み
⑦一部支障が生じる見込み
⑧あまり支障は生じない見込み
⑨特に問題なく通常どおり
⑩該当なし・分からない
＊支障が生じる見込み
⑥＋⑦＝62%
＊支障が生じない見込み
⑧＋⑨＝30%

原材料や商品等調達（仕入れ）で価格面以外で生じている支障については、直近（6か月程度）では②「一部支障が生じている」が49%、次いで①「かなり支障が生じている」が16％を占め、④「特に問題なく通常どおり」を含め支障を生じていないとする30%（③＋④）に対し、支障を生じているとした回答（①＋②）が65%と、上回りました。一方、今後（6か月程度）では⑨「特に問題なく通常どおりの見込み」を含め支障が生じない見込みが30％（⑧＋⑨）に対し、支障を生じる見込みの回答（⑥＋⑦）が62%と、上回りました。

5.中東情勢の混迷等により、原油価格等の高騰や原材料・商品等の調達に対し、行政に求める支援策について

原油価格の高騰や原材料・商品等の調達に対し、行政に求める支援策については、「エネルギーの安定供給・料金対策」が44%を占め、次いで「買占めや不当な値上げへの監督強化」が41%、「原材料・部材の調達支援」「一時支援金などの給付金」がそれぞれ29%を占めました。原材料や商品等の仕入れに対し、適正な価格、安定した調達を望んでいることがうかがえます。一方、「特になし」も9%見受けられました。

（最大3つまで複数回答）

お客さま景況インタビュー

インタビュー日付
2026 年 8 月 26 日



技術力と人間力の向上を目指して 36 年

株式会社　茅ヶ崎技研
代表取締役社長　市川　信治

所在地　：神奈川県茅ヶ崎市矢畑 995 湘南 NP ビル 3 階
創　業　：　平成 2 年 7 月（1990 年）
事業内容：半導体装置・建設機械・プラント等設計

当社は、神奈川県茅ヶ崎市において先代の社長 志田 憲一氏が平成 2 年 7 月に創業、真空装置の設計を基盤として「機械設計事業」と「プラズマ技術事業」を主要事業に、『技術力と人間力の向上を目指し、高品質な技術を提供します』とする経営理念の下、半導体装置や建設機械、製鉄プラント設計など多岐にわたる分野で設計支援を提供している会社です。今回、同社の社長であります市川 信治氏に話を伺いました。

〇当社の生い立ちについて

当社は、平成 2 年の創業当時は IHI 建機株式会社や真空総合メーカーの株式会社アルバック（旧：日本真空技術（株））を取引先とし「真空装置の設計」を手掛けてきました。平成 25 年 7 月に現在の市川 信治氏が代表取締役に就任、新たな経営方針の下、精密部品から真空関連装置まで幅広い機械設計請負業務を手掛け、半導体・建設機械・製鉄プラント等設計、3D モデルの作成サポートや製造業における自動化システムの設計、導入支援など、効率化と品質向上のサポートを行っています。その他、プラズマ理工学研究所の教授との共同事業により半導体製造に使われる「新型プラズマ測定装置」開発の技術支援なども手掛けています。令和 3 年には真空事業準大手の株式会社ミラプロの子会社となり、共同経営による基盤強化を図るなど、機械設計事業等における事業拡大に尽力しています。

〇輸出規制や重要原材料の規制など、地政学リスクによる半導体・機械設計等への影響について

一部の半導体メーカーなどは、レアアースや関連素材の入手減少で部品調達に影響が出ていますが、機械設計事業者である当社には影響がなく、懸念されている不確実なリードタイム等による部材調達の遅れからなる設計変更の発生などもありません。現在、半導体や機械設計等の需要も多く、事業は比較的順調に推移しています。

〇人材確保や育成への取り組みについて

社員の採用に関しては、採用基準を理数系以外にも目を向けた採用をしており、9 月には 4 名の採用により合計 36 名となります。人材育成については、単なる設計技術者だけでなく、「人間力、生き抜く力を身に付け、人として成長してもらいたい」という想いから機械設計の資格、検図スキル、作業時間を見積もれるスキル取得を目標に社内での勉強会の実施など、社員が成長できる環境作りに努め、人と技術の成長を目指しています。

〇将来に向けての展望について

当社は「健康経営優良法人」の認定を受けています。健康増進に取組み、生産性と収益を高めることを行動指針に掲げ、社員がお互いに高め合い、社会に価値を届けることで、持続的に成長できる企業を目指しています。※市川社長は茅ヶ崎市を拠点とするまちづくり NPO 法人「湘南スタイル」の理事長などを歴任、地元コミュニティの創出や地域活性化にも取組むなど、地域社会への貢献と社員の成長を両立させる企業文化を築いていこうとしています。



お客さまのニーズへ迅速に対応する特別融資プラン



かなしん グッドライフ500

原油・物価高騰による資金繰りをバックアップ！

令和8年10月1日現在

ご利用いただける方	当金庫の会員となれる法人または個人事業主の方
お使いみち	運転資金・設備資金 ※不動産商品物件資金は対象外とさせていただきます
ご融資金額	500万円以内
貸付形式	証書貸付
ご融資期間	5年以内 ※制度融資利用の場合は制度の期間内までとさせていただきます。
担保	原則不要
保証人	「経営者保証に関するガイドライン」の主旨を鑑み総合的に判断させていただきます。
保証料	信用保証協会をご利用の場合、信用保証協会所定の保証料（保証料率：0．45％～2．20％）が必要となります。
取扱期間	令和9年3月31日（水）まで

ご融資金利	当金庫所定の利率（固定金利型）
ご返済方法	毎月元金均等返済、元利均等返済、期日一括返済のいずれか
手数料	●初めて当金庫でお取引いただく場合 新規事業性貸付手数料　11，000円 及び　新規貸付手数料　2，200円 ●既に当金庫でお取引いただいている場合 新規貸付手数料　2，200円
条件変更手数料	期限延長 1件につき 11，000円 期限延長以外 1件につき 5，500円※繰上返済含む
その他	●お申込みに際しては所定の審査がございます。審査の結果によりご希望に添えない場合がございますので、あらかじめご了承ください。 ●返済額の試算は窓口にお申し出ください。 ●本商品はチラシのみのご案内となります。 ●店頭に説明書をご用意しております。詳しくは本支店窓口までお問合せください。 ●上記金額は全て税込です。

かながわ信用金庫 かなしん

発行　かながわ信用金庫
住所　〒238-0004 横須賀市小川町7番地
編集　経営企画部

・本件レポートは情報提供のみを目的とした標記時点における当金庫の考え方を示したものです。施策実施等に関する最終決定は、ご自身の判断でなされますようお願いします。また、この資料は、当金庫が信頼できると考える情報源から得た各種データに基づいて作成されていますが、その情報は正確性および安全性について当金庫が保証するものではありません。